

2020年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年12月2日

上場会社名 株式会社伊藤園 上場取引所 東
 コード番号 2593 URL <https://www.itoen.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本庄 大介
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 平田 篤 (TEL) 03-5371-7197
 四半期報告書提出予定日 2019年12月13日 配当支払開始予定日 2020年1月15日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年4月期第2四半期の連結業績（2019年5月1日～2019年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年4月期第2四半期	265,471	△3.6	14,107	6.8	13,872	0.4	8,925	2.6
2019年4月期第2四半期	275,468	3.6	13,212	△8.9	13,819	△5.4	8,698	△5.9

(注) 包括利益 2020年4月期第2四半期 8,171百万円 (△11.3%) 2019年4月期第2四半期 9,215百万円 (△11.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年4月期第2四半期	72.20	72.03
2019年4月期第2四半期	70.00	69.83

(注) 上記の1株当たり情報は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る1株当たり情報については、以下（参考）をご覧ください。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年4月期第2四半期	303,085	154,399	50.5
2019年4月期	303,981	150,923	49.2

(参考) 自己資本 2020年4月期第2四半期 153,168百万円 2019年4月期 149,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年4月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2020年4月期	—	20.00	—	—	—
2020年4月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 上記の配当の状況は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る配当の状況については、以下（参考）をご覧ください。

3. 2020年4月期の連結業績予想（2019年5月1日～2020年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	498,000	△1.2	23,000	0.8	22,800	△1.8	14,200	△1.8	114.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 上記の連結業績予想における1株当たり情報は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る1株当たり情報については、以下（参考）をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年4月期2Q	89,212,380株	2019年4月期	89,212,380株
② 期末自己株式数	2020年4月期2Q	1,030,968株	2019年4月期	656,736株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年4月期2Q	88,277,554株	2019年4月期2Q	88,582,223株

(注) 上記の発行済株式数は普通株式に係る情報であり、第1種優先株式に係る発行済株式数については、以下（参考）をご覧ください。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考)

(1) 第1種優先株式に係る1株当たり情報(累計)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年4月期第2四半期	77.20	77.03
2019年4月期第2四半期	75.00	74.82

(2) 第1種優先株式に係る配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年4月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2020年4月期	—	25.00			
2020年4月期(予想)			—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

(3) 第1種優先株式に係る連結業績予想の1株当たり情報

	1株当たり当期純利益
	円 銭
通期	124.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

(4) 第1種優先株式に係る発行済株式数

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年4月期2Q 34,246,962株 2019年4月期 34,246,962株

② 期末自己株式数

2020年4月期2Q 1,190,541株 2019年4月期 1,189,831株

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年4月期2Q 33,056,683株 2019年4月期2Q 33,303,033株

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、緩やかな景気回復が続きました。

飲料業界におきましては、各社の販売競争が継続するなか、「令和元年台風第19号」など相次ぐ自然災害の影響もあり、事業環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは経営理念であります「お客様第一主義」のもと、当社グループを取り巻く全てのお客様に対し「お客様が今でもなおお何を不満に思っているか」を常に考え、一丸となって積極的な事業活動を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、以下のとおりとなりました。なお、特別損失として、「令和元年台風第19号」などによる災害関連費用として1億5百万円を計上しております。

売上高	2,654億71百万円（前年同期比3.6%減）
営業利益	141億7百万円（前年同期比6.8%増）
経常利益	138億72百万円（前年同期比0.4%増）
親会社株主に帰属する四半期純利益	89億25百万円（前年同期比2.6%増）

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

<リーフ・ドリンク関連事業>

[国内茶葉（リーフ）製品]

本年も10月1日「日本茶の日」（※）に合わせて、当社社員（伊藤園ティーテイスター資格保有者など）による日本茶の魅力をお伝えする催し「お茶をたのしむ わくわく大茶会」を全国の量販店などで一斉に開催し、リーフ製品を中心に、日本茶のおもてなしを行いました。

本年9月には、大丸心斎橋店に、お茶を中心とした新しいコンセプトショップ『Four Green Leaves ITO EN（フォー グリーン リーブス イトウエン）』をオープンいたしました。「お茶の“みどり”をカラダに取り入れる幸せ」をコンセプトに、お茶を通じて、仕事や家事などに日々がんばっている女性に癒しと安らぎをお届けする“お茶の伊藤園”の直営ショップです。イートインスペースでは、「おいしく、“みどり”と大地の力」をコンセプトにしたドリンク等を提供しております。

本年10月には、大型客船ターミナルを中核とした複合施設「横浜ハンマーヘッド」に、『茶寮 伊藤園 横浜』をオープンいたしました。「お茶を通じて日本の“和”をお伝えし、お茶を身近に感じていただける場所」をコンセプトに、茶道のお点前で使用される本格的な抹茶やこだわりの茶葉を使用したいれたての緑茶のほか、抹茶を使用したドリンク、フード類を提供しております。

当社はこれらの取組みや出店を通して、お茶の新しい楽しみ方やおいしさ、魅力を国内外の多くの方々にお伝えし、日本茶、日本文化への関心を世界中に広げてまいります。

（※）「日本茶の日」とは：

1587（天正15）年10月1日、豊臣秀吉が京都府京都市にある北野天満宮にて「大茶会」を開き、身分関係なく多くの方とお茶を楽しみ、お茶を広めました。このことから、当社が10月1日を「日本茶の日」と制定しました。（日本記念日協会 2002年制定）

[国内飲料（ドリンク）製品]

2004年に発売された「お〜いお茶 濃い茶」は、上質かつカテキンが豊富な厳選された国産茶葉を使用し、健康カテキン量2倍（当社緑茶飲料比）により、濃くしっかりとした渋みと後味のキレが多くのお客様にご好評をいただいております。本年9月には、これまでの味わいはそのままに、ガレート型カテキンの働きで「体脂肪を減らす」機能性表示食品となった「お〜いお茶 濃い茶」を、全容器・全業態で発売いたしました。

また同月には、業界初となる加温・電子レンジに対応した“100%リサイクルペットボトル”の「お〜いお茶」シリーズを発売いたしました。

ノンカフェイン茶系飲料No.1である「健康ミネラルむぎ茶」においては、無糖、カフェインゼロ、カロリーゼロで幅広い層にご好評いただいております。また、熱中症対策だけでなく、スポーツ時に失われる水分・ミネラルを手軽に補給できる飲料として、より多くのお客様にご愛飲いただいております。

コーヒー飲料である「TULLY'S COFFEE」は、コーヒー豆・焙煎・抽出にこだわり、最高の一杯を追求するタリーズのバリスタが監修したプロフェッショナルクオリティーの飲料として成長を続けており、お客様の多様な嗜好に沿った製品を展開し、「TULLY'S COFFEE」ブランドのさらなる販売強化を図っております。

紅茶飲料である「TEAS' TEA NEW AUTHENTIC」シリーズからは、本年8月に生のオレンジスライスを紅茶と一緒に抽出した新感覚の紅茶飲料「TEAS' TEA NEW AUTHENTIC 生オレンジティー」を、本年9月には甘さ控えめ

で香ばしい香りが特長の新感覚ストレートティー「TEAs' TEA NEW AUTHENTIC しあわせ香る 焙じた紅茶」を発売いたしました。今後も「TEAs' TEA NEW AUTHENTIC」シリーズを通して、お茶本来のおいしさを大切にしながらも、さらなる可能性に挑戦し、お客様に“新しいお茶の楽しみ”をお届けしてまいります。

[海外茶葉（リーフ）製品]

米国、中国を中心に「グローバルブランド」で展開する「MATCHA GREEN TEA」の積極的な販売を継続して行ってまいりました。

[海外飲料（ドリンク）製品]

健康志向の高まりや日本食ブーム等を背景に、「お〜いお茶」などの無糖茶飲料が順調に売上を伸ばしております。

この結果、リーフ・ドリンク関連事業の売上高は2,447億33百万円（前年同期比4.0%減）となり、営業利益は126億50百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

<飲食関連事業>

タリーズコーヒージャパン（株）におきましては、人気のタピオカを楽しめる季節限定ドリンク「タピオカロイヤルミルクティー」や10月に発売した季節限定ドリンク「&TEA アップルキャラメリゼロイヤルミルクティー」等のティー系ビバレッジがご好評いただき、好調に推移しました。またスイーツでは、10月に「クラシックパンケーキ メープルバター」をリニューアル発売し、売上が伸長しました。新規出店も順調に進み、総店舗数は741店舗になりました。

引き続き積極的な投資とあわせて既存店舗の改装などによる活性化を図り、店舗競争力を強化することで、スペシャルティコーヒーショップとしての更なるブランド強化を図ってまいります。

この結果、飲食関連事業の売上高は176億2百万円（前年同期比3.7%増）となり、営業利益は17億59百万円（前年同期比6.2%減）となりました。

<その他>

売上高は31億35百万円（前年同期比9.0%減）となり、営業利益は3億20百万円（前年同期比33.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は次のとおりであります。

総資産は3,030億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億96百万円減少いたしました。これは主に、「リース資産」が22億1百万円減少、「のれん」が10億39百万円減少、「受取手形及び売掛金」が11億87百万円増加、「原材料及び貯蔵品」が16億64百万円増加したことによるものです。

負債は1,486億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ43億73百万円減少いたしました。これは主に、「支払手形及び買掛金」が26億11百万円減少、「リース債務」が15億90百万円減少、「未払費用」が11億80百万円増加したことによるものです。

純資産は1,543億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億76百万円増加いたしました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純利益」により「利益剰余金」が89億25百万円増加、「剰余金の配当」により「利益剰余金」が25億97百万円減少、自己株式の取得により「自己株式」が19億95百万円減少したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、135億95百万円の収入（前年同期は121億38百万円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税金等調整前四半期純利益136億88百万円、減価償却費66億65百万円であるのに対し、減少要因として仕入債務の増減額が25億30百万円、たな卸資産の増減額が20億40百万円、法人税等の支払額42億97百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、46億52百万円の支出（前年同期は50億49百万円の支出）となりました。これは主に、設備投資による支出51億68百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、80億59百万円の支出（前年同期は82億9百万円の支出）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出19億95百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出25億27百万円、配当金の支払25億93百万円があったことによるものです。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は624億35百万円となり、前連結会計年度末と比べ4億85百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績及び最近の事業環境を勘案した結果、2019年6月3日に公表いたしました通期の連結業績予想を下記のとおり修正しております。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (普通株式)
前回発表予想 (A)	百万円 510,000	百万円 23,000	百万円 22,800	百万円 14,200	円 銭 114.21
今回発表予想 (B)	498,000	23,000	22,800	14,200	114.21
増減額 (B-A)	△12,000	—	—	—	—
増減率 (%)	△2.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年4月期)	504,153	22,819	23,211	14,462	116.02

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	63,738	63,494
受取手形及び売掛金	56,581	57,768
商品及び製品	35,079	35,181
原材料及び貯蔵品	8,509	10,173
その他	13,615	12,424
貸倒引当金	△74	△69
流動資産合計	177,449	178,974
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,289	22,158
土地	22,335	22,263
リース資産(純額)	19,389	17,187
その他(純額)	20,170	22,038
有形固定資産合計	84,186	83,647
無形固定資産		
のれん	14,729	13,689
その他	4,227	3,685
無形固定資産合計	18,956	17,374
投資その他の資産		
その他	23,638	23,313
貸倒引当金	△248	△225
投資その他の資産合計	23,389	23,088
固定資産合計	126,532	124,110
資産合計	303,981	303,085
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,181	27,569
短期借入金	2,020	2,020
リース債務	5,051	4,457
未払費用	24,839	26,019
未払法人税等	4,660	4,969
賞与引当金	4,370	3,807
その他	5,350	4,704
流動負債合計	76,473	73,549
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	44,522	43,822
リース債務	7,450	6,454
退職給付に係る負債	10,313	10,504
その他	4,299	4,356
固定負債合計	76,585	75,136
負債合計	153,058	148,685

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,912	19,912
資本剰余金	18,640	18,646
利益剰余金	119,242	125,571
自己株式	△4,547	△6,524
株主資本合計	153,248	157,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,279	2,090
土地再評価差額金	△6,053	△6,053
為替換算調整勘定	671	△53
退職給付に係る調整累計額	△484	△420
その他の包括利益累計額合計	△3,586	△4,436
新株予約権	133	140
非支配株主持分	1,127	1,090
純資産合計	150,923	154,399
負債純資産合計	303,981	303,085

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
売上高	275,468	265,471
売上原価	145,957	138,547
売上総利益	129,511	126,923
販売費及び一般管理費	116,299	112,815
営業利益	13,212	14,107
営業外収益		
受取利息	39	57
受取配当金	44	51
為替差益	485	—
持分法による投資利益	152	51
その他	257	299
営業外収益合計	979	458
営業外費用		
支払利息	249	187
為替差損	—	339
その他	122	167
営業外費用合計	372	694
経常利益	13,819	13,872
特別利益		
固定資産売却益	3	4
固定資産受贈益	2	1
投資有価証券売却益	515	—
受取補償金	15	48
特別利益合計	536	55
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産廃棄損	135	24
投資有価証券評価損	8	4
減損損失	140	104
たな卸資産廃棄損	673	—
災害による損失	81	105
特別損失合計	1,039	239
税金等調整前四半期純利益	13,316	13,688
法人税等	4,429	4,618
四半期純利益	8,886	9,069
非支配株主に帰属する四半期純利益	188	144
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,698	8,925

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
四半期純利益	8,886	9,069
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△417	△227
為替換算調整勘定	599	△765
退職給付に係る調整額	66	64
持分法適用会社に対する持分相当額	80	29
その他の包括利益合計	328	△898
四半期包括利益	9,215	8,171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,045	8,075
非支配株主に係る四半期包括利益	170	95

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	13,316	13,688
減価償却費	6,646	6,665
減損損失	140	104
のれん償却額	888	880
賞与引当金の増減額(△は減少)	100	△563
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	226	283
たな卸資産廃棄損	673	—
災害損失	81	105
受取利息及び受取配当金	△83	△108
支払利息	249	187
為替差損益(△は益)	△455	313
固定資産廃棄損	135	24
投資有価証券売却損益(△は益)	△515	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,204	△1,326
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,517	△2,040
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△2,031	1,202
仕入債務の増減額(△は減少)	1,496	△2,530
未払消費税等の増減額(△は減少)	△426	△22
その他の流動負債の増減額(△は減少)	1,005	1,112
その他	△816	15
小計	15,909	17,991
利息及び配当金の受取額	87	89
利息の支払額	△246	△188
法人税等の支払額	△3,613	△4,297
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,138	13,595
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△669	608
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,420	△5,168
投資有価証券の売却による収入	730	1
関係会社株式の取得による支出	—	△42
投資その他の資産の増減額(△は増加)	310	△51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,049	△4,652
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	10	—
長期借入金の返済による支出	△700	△700
自己株式の取得による支出	△1,378	△1,995
自己株式の処分による収入	0	0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△3,521	△2,527
配当金の支払額	△2,606	△2,593
非支配株主への配当金の支払額	△4	△233
その他の支出	△8	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,209	△8,059
現金及び現金同等物に係る換算差額	179	△397
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△941	485
現金及び現金同等物の期首残高	61,376	61,950
現金及び現金同等物の四半期末残高	60,435	62,435

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2018年5月1日 至 2018年10月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	合計
	リーフ・ ドリンク 関連事業	飲食関連事業	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	255,050	16,974	3,443	275,468	—	275,468
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	215	6	1,516	1,738	△1,738	—
計	255,266	16,981	4,960	277,207	△1,738	275,468
セグメント利益	11,481	1,875	483	13,840	△628	13,212

(注) 1 セグメント利益の調整額は、のれんの償却額△748百万円、セグメント間取引119百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 2019年5月1日 至 2019年10月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	合計
	リーフ・ ドリンク 関連事業	飲食関連事業	その他	合計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	244,733	17,602	3,135	265,471	—	265,471
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	168	6	1,498	1,672	△1,672	—
計	244,901	17,609	4,633	267,144	△1,672	265,471
セグメント利益	12,650	1,759	320	14,730	△622	14,107

(注) 1 セグメント利益の調整額は、のれんの償却額△740百万円、セグメント間取引118百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。